

冬期の安定運行確保を実現しよう

2018年度申15号 2018年度冬期検証に関する申し入れ団体交渉

新潟県は9月26日に、2018年度申15号2018年度冬期検証に関する申し入れの団体交渉を行いました。効率化によりマンパワーが減少する中で除雪体制を維持し安定した運行を確保するために更なる設備改善が必要であるとの認識のもと、2019年度冬期を万全な体制で向かうために交渉を行いました。

【冬期体制】

冬期体制を全系統で統一し、12月1日からとするよう求めましたが支社側は、現時点で統一する考えはないとしました。

統一できない根拠について地本交渉団が問うと支社側は、特定の理由はないとして、いつからが良い

12月1日からと出来ないか質すと支社側は、検討はしているが各系統の要員需給もあるとして、異常時には企画部門から応援を行うとしました。

【E129系ディスクブレーキ凍結防止対策】 E129系のディスクブレーキ凍結は支社側も課題として認識し、車両・設備両面を考えて行くとした上で、他支社の経験等も参考にしながら対応していくが、今冬も昨年と同じ体制とするの考えを示しました。

【E129系ディスクブレーキ凍結防止対策】 E129系のディスクブレーキ凍結は支社側も課題として認識し、車両・設備両面を考えて行くとした上で、他支社の経験等も参考にしながら対応していくが、今冬も昨年と同じ体制とするの考えを示しました。

【E129系ディスクブレーキ凍結防止対策】 E129系のディスクブレーキ凍結は支社側も課題として認識し、車両・設備両面を考えて行くとした上で、他支社の経験等も参考にしながら対応していくが、今冬も昨年と同じ体制とするの考えを示しました。

【E129系ディスクブレーキ凍結防止対策】 E129系のディスクブレーキ凍結は支社側も課題として認識し、車両・設備両面を考えて行くとした上で、他支社の経験等も参考にしながら対応していくが、今冬も昨年と同じ体制とするの考えを示しました。



車両自体の改造については、安全上、機能的な担保が取れなくなる場合があり難しいとしました。

限流値増により起動できた件数を数え答えた支社側に対して交渉団は、どのような条件で凍結したのかを把握する体制の必要性を訴えました。

その上で、そもそ限流値増は安易に扱うべきものではなく、危険な取扱いを行っていると指摘すると支社側は、取扱いフローを含めて検討したいとしました。

昨冬期に行った車掌の誘導による起動確認の効果について支社側は、遅れを最小限にとどめたことと一定の効果はあったとの認識を示す一方で、凍結による起動不能を認め検修派遣を行った実績は石打駅構内での1件だったとしました。

今冬期も実施するのであれば毎日ではなく、日々判断で行うよう求めると支社側は、伝達のモレやオ

チが生じる危険があるとしました。交渉団は、乗務員の負担軽減のためにも必要な時にだけ行う方が良く、着点呼時の業務指示による取扱いで良いのではないかと訴えました。

信越本線・長岡〜柏崎の架線凍結対策を講じるよう求めましたが支社側は、対策は引き続き考えるが現行は塗油のみとなるかと回答し、カッター車の運行や2パン編成導入等については意見として承るとしました。

【設備改善】

長岡車輛センター及び長岡駅の融雪装置端末を更新するよう求め、今冬期に間に合うように回線をFOMAから4Gとして、通信異常が改善されるように更新するとの回答を受けました。

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

申3号

社員の働き甲斐・労働環境 お客さまサービスの視点から 申し入れを提出!

新潟地方本部は8月28日に、2019年度「システムチェンジ・コストダウン計画」の実施についての提案を受けました。

びゅうプラザの業務運営体制の見直しとして、びゅうプラザ新潟駅(株)びゅうトラベルサービスの移管の提案と共に、既に移管されているびゅうプラザ長岡駅を廃止するとの説明を受けました。

今回の施策が実施されると新潟支社内ではJR直営のびゅうプラザがなくなり、店舗も一箇所のみとなります。旅行業商品の購入機会を狭めることでお客さまを失う可能性が

容易に想像できるうえ、対面販売を行わないことによりサービスの低下につながることは支社側も認めています。

に立てるか課題もあるとしました。その上で雪況カメラ、ウエザーニュース、社員からの報告により総合的に判断しているとの説明を受けました。

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

支社側は、保全標準で点検方法、時期が定められているが全て決まっている訳ではなく、消雪設備のメンテナンスについては、実施基準等に基づき実施しているとの回答がありました。

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

【新たな仕組みの構築】 乗務員や駅員が線路上の積雪について報告する際に統一した基準となる目安を設置出来ないかを問うと支社側は、建築限界や側雪により正確な積雪が把握出来ないなど、どこ

2020年3月31日(株)びゅうトラベルサービスへ移管とした根拠を明らかにすること。

3. びゅうプラザ長岡駅を廃止する理由を明らかにすること。

4. びゅうプラザ店舗廃止に伴い、駅営業に移行する業務は何か明らかにすること。

5. 4項目についての業務を移行するにあたっての対応策を明らかにすること。

6. 施策実施に伴うサービス低下に対する考え方を明らかにすること。

◆申3号 申し入れ項目◆
1. 今提案における、現在本部・本社間で継続議論されている「駅」の変革と新たな顧客接点創り(旅行業部門の今後の方向性)との関係性を明らかにすること。
2. びゅうプラザ新潟駅を

